

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071901179		
法人名	社会福祉法人 大浦福祉会		
事業所名	グループホーム 愛の里 白寿荘(Aユニット/ Bユニット共通)		
所在地	〒826-0043 福岡県田川市大字奈良1534-31		0947-45-2513
自己評価作成日	平成23年10月27日	評価結果確定日	平成23年12月06日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご縁を大切に、やさしさと思いやりを持って何事にも取り組んでいくことを心掛けています。お隣に瓦屋根の古民家調の交流施設が併設されており、かまどや囲炉裏、足湯などが利用出来るのも特色のひとつです。施設内では季節折々の行事を行っており、中庭にはご利用者さんと合同で野菜畑を作っています。かまどで炊いたご飯や、畑で採れた野菜を使った食事を通じ、高齢者、子供たち、職員等の世代を超えた交流の機会を持つよう、0歳から100歳・・・をコンセプトに環境づくり、施設づくりに取り組んでいます。併設施設の職員間で協力し合い、サービスの質の向上に努めています。各業種のそれぞれの得意分野を活かし、情報を共有して協力し合っています。職員間の協力体制とご利用者さんへの優しい気持ちは、当施設が誇れることの一つです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑に囲まれ、自然環境に恵まれた小高い丘の一角に、保育所、デイサービスセンター、ものづくり、ひとづくりの匠の里と併設のグループホーム愛の里白寿荘がある。リビングから外を眺めると、元気な園児が、賑やかに動き回る姿を、目を細めて楽しそうに眺める利用者の顔があり、竈で炊いたほくほくの新米を、利用者が、お代わりしながら食べる光景は、家族の喜びに繋がり、健康の源になっている。このように、自然で、ストレスを感じさせない日々の暮らしは、主治医も驚くほどの健康体で、「ここで暮らせて良かった」と利用者や家族から思われ、職員の意識は、益々高まり、日常的な支援に全力投球をしている。今後も、地域福祉の拠点として、施設長を中心に職員全員で、利用者の一日一日を大切に、究極の介護を目指す「愛の里 白寿荘」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27		093-582-0294
訪問調査日	平成 23年11月17日		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)- です。)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の特色を活かし、ご縁を大切に考え、愛の里 白寿荘に関わった方々が「ここに来て良かったね、ここに来て元気になったね」と言って頂けるグループホームを目指しています。	ホーム独自の理念を揚げ、職員は優しさと思いやりを持って利用者へ接している。入居後に介護度が改善したり、家族との会話が通じるようになる等「ここに来てよかった」という、利用者や家族の声が聞こえてくる。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	近所は団地で、現在新築中ということもあり空き家が多く、なかなか交流の機会をつくることは困難ですが、併設施設との交流をきっかけに、地域とのつながりを持てるよう取り組んでいます。	事業所で、コンサートを開き、地域の人を招待したり、また、大学生の見学や体験学習の受け入れもしている。障害者施設の人たちとパーベキューをしたり、ゴミ捨て場の清掃等、利用者が地域の方々との触れ合いながら生活できるよう支援している。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設施設での認知症の方への支援に協力し、伴に支援の向上に努めています。また、知的障害者施設との交流を持ち、障害者の方の自立支援の応援と交流の場、働く場を提供し関わりを深めています。	
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に行い報告を行っています。参加者の意見を取り入れ、サービスや取り組みの向上に努めています。	ホームで取り組んでいる活動や今後の計画についての報告の他に意見交換、情報収集の場として多くの時間を使っている。家族が感じた利用者の変化や利用者自身の意見も聞かれ、意見を大切にサービスに活かしている。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者と介護保険制度やサービス内容の事項について、日頃より頻繁に電話や訪問にて、アドバイスや相談を受けています。	障がい者の自立支援の一つとして交流や就労の場を提供したり、0歳から103歳迄多くの人々の集いの場として事業所を提供する等、地域の介護、福祉の推進に貢献している。また、運営推進会議に行政職員が参加し、連携を図っている。
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護指基準の内容が理解出来るよう、代表者、全ての職員で定期的な身体拘束についての話し合い、研修を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束に関するマニュアルを作成し、研修会を開く取り組みをしている。玄関や出入り口には鍵を掛けていない。職員が、利用者を見守り出来る状態で、行動パターンを把握し、ホームの暮らしを制限することなく安全を確保するうえで心強い。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に管理者や職員と、高齢者虐待防止関連法についての話し合いや研修を行い事業所内での虐待が見過ごすことがないように注意を払い、防止に努めている。ご利用者の身心の状態をよく理解し職員間で協力し合う体制を作っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用は今までに実績はありませんが、日常生活自立支援や成年後見制度について話し合い、必要性のある方には活用出来るよう理解しています。	権利擁護に関する制度に関する資料を揃え、利用者、家族に説明している。現在、制度を活用している利用者はいないが、いつでも必要な支援が出来るよう、職員は、研修に参加し、理解を深めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時はご利用者さんご家族に面談して、不安や疑問点を聞き出し、説明を行い同意を得るようにしています。契約後につきましても継続して、話し合いの場を設けて説明していくように努めています。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1度、お支払い日に健康状態、生活状況の説明を行い、ご利用者やご家族のご意見、ご要望を確認するようにしています。頻りに訪問されないご家族につきましては、電話で確認したり、定期的にご都合のよい日に訪問して頂けるようお願いして、話し合いをしています。	月に一度の利用料の支払い、受診結果の報告、家族の面会や、行事への参加時等、様々な機会を捉え、積極的に意向を聴いている。施設長や管理者も交え、介護計画に対する意見を聴くこともある。出された意見を、出来るだけ運営に反映させている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を行い、運営に関する方向性や現状について話し合う場を設け、些細なことでも職員の意見や提案を聞き取り、それを反映するようにしています。	毎月の全体会議では、事前にテーマを決め話し合い、職員の意見や要望を積極的に聞き取り、毎日のミーティングで出された意見と合わせ、運営に反映させている。職員の慰労と意見交換を兼ねた研修旅行等も実施している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の生活状況を踏まえ、出来るだけ希望に沿った勤務条件で勤務出来るようにしています。職員の個々の努力や実績、勤務状況を把握し、待遇の内容を見直し、やりがいの持てる環境作りを努めています。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたりましては、人柄を重視して年齢や性別、資格等で採用の対象から排除しないように努めています。また、職員が得意分野で力を發揮し、やりがいをもちながら仕事出来るよう、苦手な分野は援助して、負担にならないように配慮しています。	職員採用は、人柄を重視して採用している。採用後はホームでの様々な事例を冊子にしたものを用い、皆で学習しあい、職員の力を、十分に發揮出来るよう工夫したサポートをしている。資格取得を目指す職員には、勤務のローテーションを考慮する等の支援をしている。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	個人の人権を尊重するよう、頻りに話し合いを設けるようにしています。慣れっことなることで、ご利用者の方への対応が粗末になったりしないように、また日頃からの言葉使いに対しても注意するようにしています。	利用者の人権に限らずホームに関わる保育園児や、交流を深めている障がい者等、個々の人々の人権を尊重し、皆が共に生き生きと過ごせるように外部や法人内研修等、人権について理解を深める取り組みをしている。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験に応じ、実際のケアの力量を把握して、事例があるごとに話し合いを行っています。また、定期的に会議や研修を通じ自己啓発出来るよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や勉強会を通じ、併設施設の職員同士、協力し合いサービスの質の向上に努めています。同業者や認知症専門病院の看護師、相談員の方と連携を図り協力を得ています。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時に面談の機会を多くとり、何度もお話しをしてご利用者の困っていることや、要望などを聞き取り、信頼関係を築けるように努めています。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時に面談の機会を多くとり、ご家族の困っていることや、要望などを聞き取り、信頼関係を築けるように努めています。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入の際、現状を知るためのアセスメントを行い、ご希望だけでなく、必要としている支援を見極めて広い視野で慎重に対応するように心掛けています。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々、状況に応じて、声掛けを行い気持ちに沿ってやりたいこと、やれることを見つけるよう努めています。状態に応じてご利用者同士が助け合う場面が作れるよう支援しています。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	心身の状態を常に報告しながら、援助方針はご家族と話し合い決定しています。また、ご本人さんとご家族の方との関係が円滑いよう支援することを心掛けています。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで馴染みだった方やご家族の方が訪問しやすい雰囲気づくりを心掛けています。ご利用者の要望はご家族の方にもお伝えして、協力して頂いています。	併設施設からの入居者も多く、入居前の友人とふれあう機会も多い。竈や囲炉裏や足湯が馴染みの人との関係継続や地域の人とのふれあいの輪を広げる媒体にもなっている。友人や家族と好きな時に電話で話せるよう10円玉を自由に使える等の取り組みをしている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自由に過ごせる雰囲気を作り、状態や性格、お気持ちを配慮して孤独感や不安感のないよう職員が関わっていただけるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も関係機関についての問い合わせや相談を受けているご利用の方がおられます。退居の際、今後も気軽に相談出来るようにご説明しています。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向について、把握していけるように日頃からの会話に気を付けています。意向の把握や希望を叶えるのが困難な方につきましては、職員間で情報を共有して、良い表情が引き出せるような援助が出来るように取り組んでいます。	「利用者の笑顔が何よりの励み」と職員は利用者の表情や動作等から把握し、寄り添った支援に努めている。保育園児とのふれあいの中や、皆で足湯を楽しんでいるとき等、利用者の日頃と違う表情を見たり、言葉を聴けたりすることもある。また、笑顔や元気が引き出せるような様々な工夫もしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者さんやご家族の方からの聞き取り等で生活歴、これまでのことを把握してごサービスに反映されるように心掛けています。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の状態や体調については、職員間で申し送りし全員で総合的に把握出来るよう努めています。心身の状態の変化を見逃さないよう配慮して、状況にあった過ごし方を工夫しています。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者・ご家族、その他必要な関係者と話し合い、現在の問題点、援助方法、今後の目標について検討し介護計画を作成しています。	運営推進会議や家族の来訪時に、意向や要望を積極的に聴き、利用者の日々の状態を職員間で話し合い、介護計画に反映させるようにしている。利用者の状態変化に合わせ、その都度、家族や関係者と相談し、見直しを図っている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にその日の状態、一日の過ごし方等を記録して、話し合いながら援助しています。状態に変化があれば介護計画を見直し、援助方法を検討しています。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設とは、行事や日々の介護の中で連携を図ることでそれぞれの特色を活かし、協力し合って援助を行っています。各専門分野の方へ相談しサービスが画一的にならないように注意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお世話される方との連携や、障害者施設、学校関係など少しずつ、関わりが広がってきています。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医はもともとのかかりつけ医に出来るだけ受診出来るように支援し、ご本人さんとご家族が納得して適切な医療が受けられるように支援しています。また、受診内容については随時、ご家族に報告しています。	利用者、家族の意向を尊重し、かかりつけ医への受診支援をしている。職員が同行し、受診結果はその都度家族に報告している。医療連携で契約している看護師による週に1度の訪問や併設施設の看護師の支援も得ている。訪問歯科診療もあり適切な医療、看護が受けられるような体制が整えられている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護により定期的に健康管理を受け、適切な医療処置が受けられるよう支援している、併設の看護職員とも連携を図りご利用者の状態把握が出来るようにしています。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医院や認知症専門病院との連携を日頃から行っています。ご利用の方が入院した際は情報提供を行い、状態の把握にも努めています。入退院についてはソーシャルワーカーや看護師と連絡を図り早期退院に努めています。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですでできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の際、状態の変化があった場合や終末期についての事項の説明や意向の確認を行っています。看取りに関する対応指針の内容を説明して同意を得ています。ご利用者の方の状態に変化があった場合、関係機関との連携を図り支援を行っています。	重度化した場合や、終末期の対応についての指針を作成し、利用者や家族に説明をして同意を得ている。利用者の状態に変化が見られた時はその都度、家族や医療関係者等と連携を図りながら方針を確認し、迅速な対応が出来るようにしている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	病状による対応や事故発生時に備えて、定期的に研修を行い実践力が身に付くように努めています。併設施設の看護職員や訪問看護、主治医に相談し適切に対応出来るように努めています。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行い、消防署に届け出を行っている。併設施設職員と共に、避難方法や緊急時の対応についての研修、話し合いを定期的に行い協力体制を築くように努めています。	年2回夜間を想定した避難訓練を併設施設の職員も一緒に実施している。ホームは平屋造りで玄関以外の出口も多く、5分以内に駆けつけることができる職員が多いので、日頃から連絡できる体制がとられ、夜間は特に心強い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の方々のお気持ちを尊重し、言葉使いや対応出来るよう、日頃より話し合いを行っています。敬語で話したり、相手の身になって物事を考えるように支援しています。	志を持ち、使命感があり、利用者に寄り添える人が介護するという、施設長の想いを職員が理解し、利用者の気持ちを大切に、誇りやプライバシーを損ねることがないように支援している。一人ひとりの居室の横にトイレを設ける等、羞恥心への配慮もなされている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人おひとりの思いが表現出来るように、状態に応じた対応を心掛けています。意思疎通が困難な場合でも、表情や日頃からの状態の変化を見逃さないように支援していくように心掛けています。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活のルール の範囲内で、出来るだけご利用者の方のペースで過ごして頂けるように支援しています。食事の時間や過ごし方も希望に沿って支援出来るよう取り組んでいます。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分でその日の洋服を選んだり、定期的に美容院へ行ったり、お出掛けの際はおしゃれしたり等、生活にメリハリが出来るよう支援しています。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものをメニューに取り入れたり、好きな食べ物や嫌いな食べ物を把握してメニューを工夫したりしています。出来る範囲でお箸を並べたりテーブルを拭いたり職員と食事の準備を行っています。	中庭の畑で採れた野菜を食材に用い、彩りも考慮された食事は品数も多く、器にも細かい心遣いがなされ、食欲をそそる。竈で、薪を使い、ご飯を炊き、庭の木立の下で食べたり、バーベキューをしたりして、食事が楽しいものとなるような工夫が随所になされている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を記録して、変化があれば情報を共有し、必要であれば食事内容を変更したり、主治医に相談したりしています。定期的に水分補給を行い、自由にお茶が飲めるように工夫しています。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	状態に応じて、食事の後の口腔ケアを行っています。定期的に訪問歯科の受診を受け、治療の必要な方は速やかに処置して頂いています。希望者は居宅療養管理指導を受け継続的にケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を心掛けています。失敗の多い方も定期的にトイレでの排泄を行い、自立排泄を支援しています。	職員は、利用者の排泄パターンや習慣を把握し、さり気なく声をかけるなど、トイレでの排泄を大切に支援し、自尊心を傷つけたりすることがないように、尿とりパットや紙パンツを上手に活用し、気持ちよく過ごせるように支援している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ばず影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の変化があった際は、食べ物の工夫や運動などを試みたり、必要であれば、主治医に相談して内服薬の調整をして頂いています。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望者には、併設施設の大浴場を利用して入浴を楽しんで頂いています。管理上、基本の入浴時間は決まっていますが、ご利用者さんの希望、心身の状態や活動に応じて支援しています。	入浴回数や時間は、おおまかに決めているが、利用者の状況や希望に沿って柔軟に対応している。併設施設の大浴場は手入れの行き届いた庭を眺めながら温泉気分を味わうことが出来る利用者には好評で、順番を決め人数制限が必要な状況である。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠時間、日中の活動状況を確認し、睡眠リズムを把握出来るように努めています。夜間の温度や寝具調節を適切に行い安心して気持ちよく眠れるように支援して、昼夜逆転しないように働き掛けています。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の管理は慎重に行い、薬局にて一包化にして頂き、個別ケースに一回分ずつ仕分けして、間違えないよう工夫しています。内服内容については、お薬手帳を作成して、内容・用量を確認しています。変更があれば申し送りを行い確認しています。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	やれること、やりたいことを理解して生活の中で楽しんで頂けることを見つけています。お出掛けや中庭や併設施設での楽しみ食事会、足湯や釜戸料理など気分転換になる活動を支援しています。併設の園児達が毎日訪問し、一緒に体操やレクリエーションを行ったり食事の準備のお手伝いをして頂いてご利用者の皆さんに喜んで頂いています。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は、個別の体調や心身の状態に応じて行っています。気分転換や楽しんで頂けるよう行きたいところを話し合い可能な限り出かけられるように支援しています。	昔ながらの風情を大切に匠の里や保育所、デイサービスセンター等広大な敷地の中に、人とふれあい体験できる諸施設があり、日常的に園児と遊んだり足湯を楽しんだり、菜園で野菜を育てたりと戸外に出る機会も多く、個々の希望に沿い買い物にも出かけている。利用者の意向に沿った外出の機会を多く計画している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預かり金を管理して、必要な時にお渡しするようにしています。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話をかけられる方は、10円玉を自由に使えるように支援しています。ご家族の方からの電話があった場合は、座ってゆっくり話せるようにしています。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	状態に応じて、ご利用者の方が不安や不快感を感じるような場面は作らないよう心がけています。自分の居場所やくつろげる空間の確保に気を付けています。音楽やテレビなどその時の状況に応じて音量や種類を選んでいきます。室温、湿度管理には注意して除湿や加湿、冷暖房器具の使用を行っています。	庭の木々の紅葉を眺めながら、足に優しい木道を進んだ先に、古民家風の造りの玄関がある。大きな窓越しに、広い運動場、保育所、デイサービスセンター、菜園を眺めることが出来る。自然の光や風を取り込めるような工夫がなされたホームは、居ながらにして、季節を肌で感じることが出来る。優しいBGMに混じって元気な保育園児の声が聞こえ、季節の飾り付け等、温かい家庭的な環境である。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士、お部屋を訪ねあったり、中廊下にて、中庭の畑や子供たちを眺めながらくつろぐ事が出来るようにソファやテーブルを置いています。居室には声掛けをして入室する等、おひとりの時間を邪魔しないよう対応しています。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、使い慣れた鏡台や家具などがあればお使い頂くようお願いしています。心身の状態に応じて、模様替えや居室の移動を検討するように支援しています。	頭元に小物がおける棚のついたベッド、ベッド下の収納引き出し、押入れとクローゼットを兼ね備えた収納スペース等、便利さと安全面の工夫がされた居室はすっきりと片付き、突出が少ない。使い慣れた家具が置かれ、楽しそうな家族の写真や、手作りの作品が飾られた居室は、窓が大きく、清潔で快適な空間になっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人で出来ることは、安全に行えるように支援しています。ご自分の持ち物や居場所が把握出来るよう名前を記入したり、声掛けしたり、戸惑うことのないよう心掛けています。		